

神奈川県栽培漁業協会では、マダイを卵から孵化し、ある程度大きさになつたら小網代港内のイケスに移される。ここで6~8cmまで育てから放流するという。

強い日差しが照りつける中、小網代港から船に乗り、港から出たところの放流ポイントへ。合図とともに、大きく育つよううに願いを込めて放流した。

神奈川県栽培漁業協会では、マダイを卵から孵化し、ある程度大きさになつたら小網代港内のイケスに移される。ここで6~8cmまで育てから放流するという。また、神奈川県栽培漁業協会の放流事業のため100万円の寄付をしているとのこと。今回は創立90周年記念により、300万円の寄付があった。

まことに、神奈川県栽培漁業協会理事長の後藤勇さんへ目録が贈呈された。ちなみにシマノでは毎年、神奈川県栽培漁業協会の放流事業のため100万円の寄付をしているとのこと。今回は創立90周年記念により、300万円の寄付があった。

シマノ創立90周年を記念して開催! いつまでも豊かな海が 続くことを祈って…

マダイの稚魚放流

文◎SALT WORLD



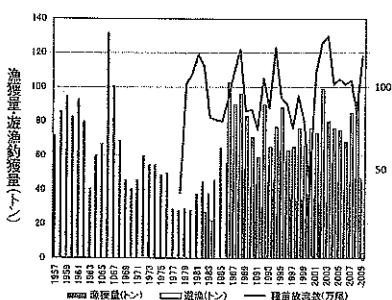
ちなみに今回、放流されたのは6~5cmほどに育ったマダイ。約4ヶ月でこのサイズになるということで、今回のマダイたちは、4月20日に卵から孵った魚たちだという。

放流場所に到着後は合図とともに、島野泰三さん、後藤勇さん、高橋哲也さん、長浜いりあさん、流川ミサさんが放流。放された稚魚たちは、「元気に大海原へ泳いでいた」。このマダイたちが、自然の中ですくすく育ち、成魚になって子孫を増やし、ずっとずっと私たちを楽しませてくれることを期待したい。

マダイ稚魚放流事業の効果と必要性

神奈川県栽培漁業協会では、毎年マダイの稚魚を80~120万匹、東京湾と相模湾に放流している。放流事業をする前は遊漁によるマダイの釣果は3.8トンという非常に少ないものであったようだが、放流が始まつて9年後から、遊漁によるマダイの釣獲量調査を始め、年によって変動はあるが、遊漁による釣獲量は、漁業の釣獲量の2倍近くに達しているという。漁獲量は放流後には大きな変動がなく安定した状態を保っているが、増大はない。ちなみに2006年の調査では、マダイ捕

獲量136トンのうち、75%遊漁、25%漁業という結果も出ている。これらからも分かるように釣りによるマダイの捕獲数は大きく、釣り人側も放流事業への協力は必要と考えられる。そのようなことから、神奈川県では2001年度からマダイの釣り人が1回乗船することに200円の協力金制度を導入。さらにマダイ船に1ヶ月1集1万円の制度を加え、その寄付を加えて毎年の放流数の維持をしている。今後、マダイ釣りを楽しむためにも、皆の協力が必要なのである。



マダイの漁獲量・遊漁釣獲量と稚苗放流数の経年変化

※神奈川県栽培漁業協会作成



去る8月11日、シマノの主催によるマダイ放流事業が、神奈川県の三浦半島・小網代港にて開催された。このイベントは、シマノが会社創立90周年を迎えるにあたつての記念事業というものの、豊かな海と、美しい釣り場を維持するために全国4箇所においてマダイの稚魚の放流事業を実施。その第一回目が、神奈川県栽培漁業協会の協力のもと開催されたのである。

放流前に城ヶ島にある神奈川県栽培漁業協会で行われたシマノ創立90周年式典には、多くの報道関係者が集合。式典では、シマノ取締役・釣具事業部長・島野泰三さんから「今回の稚魚放流は、自然に対する感謝の気持ちと、100年、200年経つても変わらぬ環境保全、自然保護の取り組みと考えています。これからも多くの釣り人の皆様に、楽しんでいただけますように、マダイ稚魚10万匹相当を放流させていただくことになります」といった挨拶と

した」といった挨拶と

ともに、神奈川県栽培漁業協会理事長の後藤勇さんへ目録が贈呈された。ちなみにシマノでは毎年、神奈川県栽培漁業協会の放流事業のため100万円の寄付をしているとのこと。今回は創立90周年記念により、300万円の寄付があった。

また、神奈川県栽培漁業協会の専務理事・今井利為さんから、神奈川県のマダイ漁獲量の推移や放流事業の必要性についての説明。埋め立てにより藻場や干潟といったマダイの幼魚が育つ環境が少なくなった現在の神奈川県では、現在の釣

放流事業は欠かせないのことであつた。マダイ釣りを今後も今までどおり楽しむためには、放流事業がいかに大切なかを実感した話であつた。

その後は、参加者とともに小網代港へと移動。今回の放流事業には、神奈川県にも縁の深いシマノインストラクターの高橋哲也さん、長浜いりあさん、流川ミサさんも参加。小網代港では、マダイの稚魚が積み込まれた放流艇と撮影艇に別れて乗船し、併走しながら港からすぐの放流ポイントを目指した。

黒水準を維持することを考えると、この放流事業は欠かせないことであつた。マダイ釣りを今後も今までどおり楽しむためには、放流事業がいかに大切なかを実感した話であつた。